

互いに伝え合う活動を通して実感する「雄中生の絆」

校長 片山 亮一

心から誇れる218名の3年生が笑顔で学び舎を巣立ち、お陰様で今日は無事に1、2年生の修了の日を迎えることができました。思い返すと、2か月の臨時休業でスタートした令和2年度は、様々に苦労はしましたがその分だけ工夫したことや努力したことも多く、本当に中身の濃い充実した一年となりました。

卒業した3年生は、雄山中学校の伝統と校風を確実に受け継ぎ、体育大会や合唱コンクールなど、いくつもの学校行事を見事に成し遂げてくれました。何よりも、コロナ禍の大きく立ちほかかる「制約の壁」をもろともせず、みんなで希望をつないで『明るい学校 楽しい学校 美しい学校』を創り上げた3年生には感謝の気持ちでいっぱいです。

卒業式前日は、富山県中学校体育連盟・文化連盟等の授賞伝達や第3学年修了証授与、卒業式予行を滞りなく終えることができました。

実は判断にかなり迷ったのですが、感染症対策を最大限に講じ、全校生徒を体育館に集めました。3年生の胸を張った姿を予行でよいから在校生に見せてやりたい、卒業式に参列できない在校生が「雄山中学校校歌」の1番から4番までを3年生とともに歌い、最後のエールを贈れるようにしたいと願ったからです。

全校生徒で臨む「最初で最後の校歌斉唱」の3年生後方から届く在校生の力に満ちた歌声は、確かな「雄中生の絆」を感じさせ、その後の3年生だけで執り行った同窓会入会式では、一人一人の表情がより頼もしく見えました。

さて、県立高校入試では入試日当日に体調不良等で受検できなかった生徒への配慮として、2年前に「追検査」が導入され、入試以降の卒業式までの日数が3日から4日に増えました。その新たに増えた時間で在校生に何かを伝えたいと願い企画された3年生による『雄中LOVEプロジェクト』、このプロジェクトがようやく実現しました。そもそもこのプロジェクトは昨年3年生が企画したのですが、3月の臨時休業により「まぼろし」に終わってしまっていたものです。その先輩たちの思いをつなぎ、「僕たち、私たちを超えてゆけ」のサブタイトルを添え、昨年のものとはスタイルを変えて実施してくれました。

ステージ上に上がった何人ものパネリストが、学習や生活をテーマに自身の経験を次々に下級生に熱く語り、その願いを雄山中学校の後輩たちにつないでいました。

マイクを片手に分かりやすく話す生徒、マイクを使わず地声で力強く語る生徒、パフォーマンスを交えてユーモアたっぷりに伝える生徒と、魅力ある上級生の姿に1年生も2年生も聞き入っていました。

卒業式を目前に、1、2年生が「卒業を祝う会」で3年生に感謝を伝え、3年生がこのプロジェクトでお返しをするといった、互いに伝え合う雄山中学校オリジナルの活動が、コロナ禍の不安を払拭し、明るい機運を皆に与え、心地よい時間となりました。3年生がこれまで大切にしてきた「実行力と安心感」が雄山中学校の新たな魅力ある活動に引き継がれていくこと、「創り上げる喜び」を生み出し、常に希望を語ってくれた「誇れる卒業生」が4月からの新天地で邁進してくれること、そして、在校生が「雄山中学校の願い」を様々につないでいってくれることを切に願います。

3年前の入学式、先日の卒業式、そして、今日の修了式に、私は詩人・金子みすゞの『わたしと小鳥と鈴と』を朗読しました。

短い詩ではありますが、「みんな違って みんないい」と結ぶ作者の願いを心に刻んだ子どもたち一人一人が、心豊かに成長し、だれもが優しくなれる社会の担い手となってもらいたいと思います。

地域並びに保護者の皆様には、本年度も雄山中学校の教育に深いご理解とご支援を賜り、本当にありがとうございました。すばらしい子どもたちに出会えたことに心から感謝申し上げます。



3、4月の主な予定



3月24日(水) 修了式、離任式
25日(木) 学年末休業(～4月5日)

4月6日(火) 始業式
8日(木) 雄山中学校入学式

心和む「卒業を祝う会」～感謝を込めて

3月12日(金)の5、6限に「卒業を祝う会」を行いました。テーマ「ありがとう～よろこびは友とともに分かん～」のもと、1、2年生が寸劇やクイズ、ダンスを披露し、生徒会が3年間の思い出をスライドにまとめ、3年生への感謝の気持ちを伝えました。

3年生は、1、2年生の工夫を凝らした出し物や数々の写真、恩師からの心温まるメッセージに大きな拍手を送り、在校生の「おもてなし」を心から楽しみました。



ユーモアあふれる楽しい寸劇



みんなを魅了したリズムカルなダンス



意見をまとめて回答する代表生徒

【「卒業を祝う会」を終えて】

- ・ 私たちは、劇の背景や衣装、小道具を作りました。短期間でしたが、どのグループも3年生のみなさんに楽しんでもらうことを目標に努力を重ねました。特に私が担当していた背景は「無限城」がテーマだったので、どのような構図にしようかと迷いましたが、仲間と共に作り上げることができました。
- ・ シナリオづくりや監督の仕事で一番頑張ったことは、最初から物語を作り上げたことです。とても大変でしたがやりがいもありました。その後も役者たちの演技指導や道具の人たちと話し合いをして、劇がよりよくなるよう努力しました。本番では3年生のみなさんが笑ってくれたのでとてもうれしかったです。頑張って本当によかったと思いました。

想いをつなぐ『雄中LOVEプロジェクト2021』

3月15日(月)、3年生が「雄中LOVEプロジェクト」と題して、1、2年生に向けてパネルディスカッションを行いました。

中学校生活を振り返り、自分の勉強の仕方や学校行事との向き合い方について、具体的に分かりやすく紹介し、自らの思いを伝えました。

その後、3年生が1、2年生に混声合唱『あなたへ～旅立ちに寄せるメッセージ～』を贈り、「雄中生の絆」を全校で確かめ合いました。



3年生の想いが伝わりました



『あなたへ』に願いを込めて

第74回卒業式～3年間の思い出を胸に

3月17日(水)、数々の思い出と新たな決意を胸に、218名の卒業生が学び舎を巣立ちました。在校生の卒業式への同席はかありませんでしたが、大岩久七教育長様のご臨席のもと、多くの保護者の皆様と教職員に見守られ、胸を張って卒業していただきました。

【在校生送辞(一部抜粋)】

入学当初、新たな生活への不安を抱く私たちに、「分からないことがあったらいつでも聞いてね。」と声を掛けてくださり、その温かさに安心したのを覚えています。あの日から私たちにとって先輩方は、目指す「理想の存在」となりました。

私たちが、これから目指すのは、みなさんが築き上げてこられたこの雄山中学校の伝統をさらに発展させ、全校が心をひとつに「大輪の花」を咲かせることです。その努力を在校生みんなで行うことを、今ここに誓います。(在校生代表 村田 祐菜)

【卒業生答辞(一部抜粋)】

最高学年としてのこの一年、私たちは逆境に負けない「しなやかさ」を身に付けました。その経験が、これから歩む道において、私たちをきっと支えてくれることでしょう。

後輩のみなさん、私たちが卒業した後も雄山中学校らしい「明るさ・楽しさ・美しさ」をつなぎ、新たな伝統を築いていってください。

今、改めてこれまでの歩みを振り返り、いかに多くの方々を支えられてきたか、自分たちが幸せであったかをかみしめています。本当に感謝しています。

「人生という名の迷路の果てに 信じ合えることの
喜びと悲しみを知った分 優しくなれる」

(卒業生代表 西田 空人)



在校生代表の送辞



卒業生代表の答辞



希望に満ちた表情の卒業生